

◆ 映画『小津』解説 ◆

美しい仮象としての小津、ローアングルと固定ショットをめぐる考察

悲劇三部作の完結編である『小津』は、小津フィルムの本質的な美学を「死の美学」「消え去ることの事件」と想定するところから始まりました。その死の美学を絶頂にまで描いた作品と私が考える『宗方姉妹』（1950年）と『東京暮色』（1957年）の2作品が『小津』の本筋となっています。さらに、『父ありき』（1942年）、『風の中の牝鷄』（1948年）、『晩春』（1949年）、『東京物語』（1953年）、『早春』（1956年）、『浮草』（1959年）の6本の作品を加え、物語を組み立て直しました。小津の「死の美学」のモチーフを形象化する際にこだわったのが、完璧な「ロー・アングルと固定ショット」の駆使です。小津の映画的形象化の美学の核心は“造形的スタイル”にあるからです。

『小津』の映像美学を織り成すのは、福知山市大江町を中心とする景色や施設、建物です。大江山の雲海、由良川、吊り橋、一両の丹鉄、大江駅、福知山城、豊受大神社、福知山公立大学図書館、新町商店街などの舞台をはじめ、京都府指定有形文化財の大雲記念館（旧平野家）を主人公（明子、紀子、周吉）の家に設定するなど、日本の自然と伝統家屋を美しく撮り終えたと思っております。（ゾンピロン）

— ストーリー —

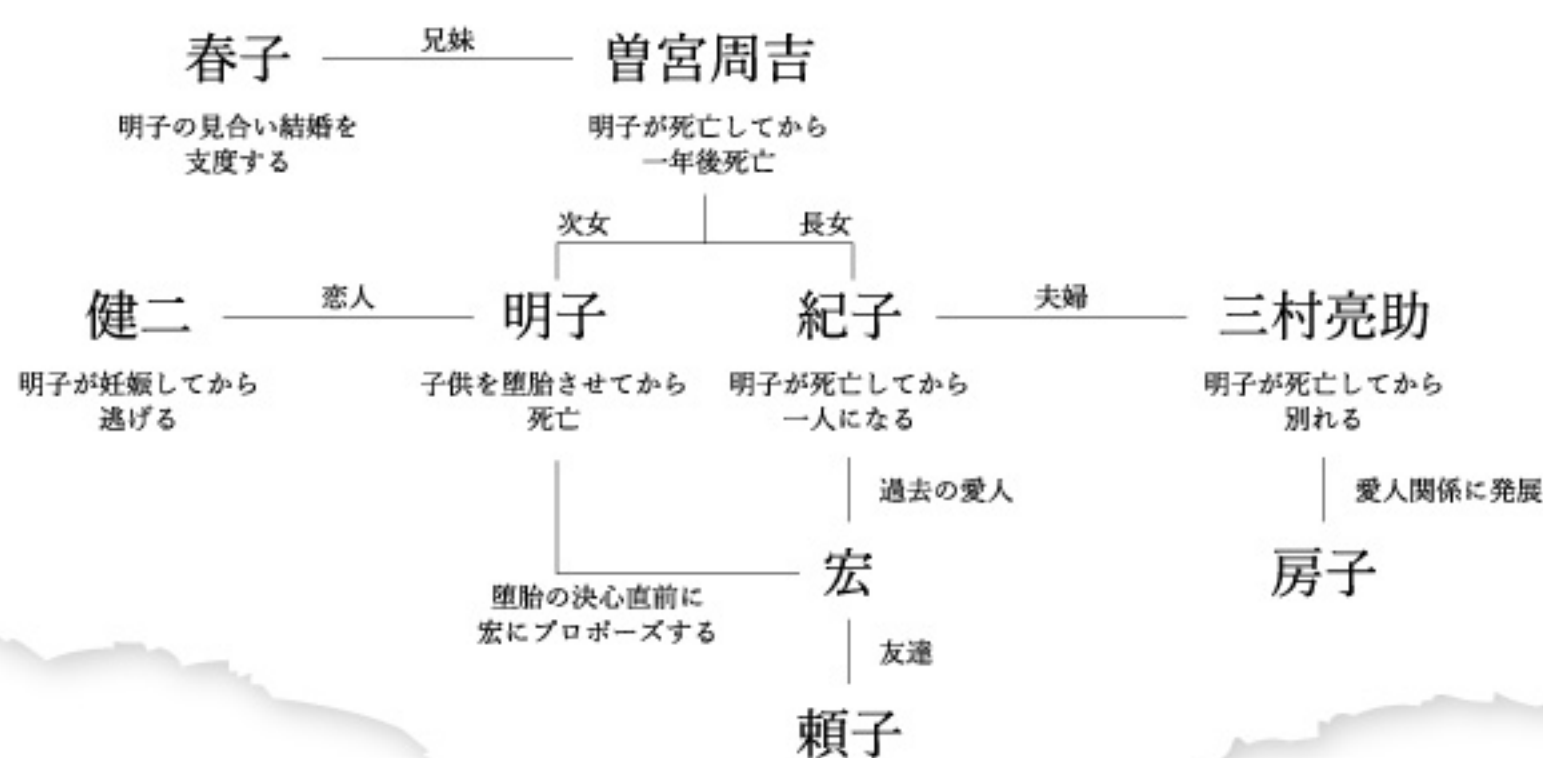
大江山の雲海が流れる夜明け、明子と健二は来年の今頃を心配しながらも深い愛を確認するキスを交わす。明子は昔のお姉さんの恋人であった宏（40歳）の店を訪ねて、宏にどうして姉と結婚しなかったのかと尋ねた。笑って答えない宏に業を煮やした明子は結婚を申し込んだ。突然のことでビックリした宏は明子をなだめようとするが、明子はなおも激しく宏に追った。

一方、周吉の長女紀子は経営している飲み屋エロスに行く支度をしていた。店のことで金の工面を宏がしてくれたと知ると夫の三村亮助（41歳）は急に不機嫌になり、紀子の説明に耳も貸さずに邪推した。困り果てた紀子は店を辞める決意を伝えると、亮助は猫をあやしなげながら無関心を装った。そして、紀子は夫に殴られ、明子は妊娠した。

明子・紀子姉妹が迎える予想もしない運命とは…。



『小津』人物関係図



スマートフォンで読み取ってください



脚本 監督 編集 ゾンピロン

Japan, Korea / 2020 / Black & White, Color / Sound /

71min / Language: Japanese 制作: Zon Pilone XMEDIA

制作部: 城間典子 / 岩佐悠毅 / 孫章熙 / 上村妹子 / ジョン・ダキョン

撮影監督: 任昌宰 撮影助手: 李在華 録音: 北川航平 スクリプター: 新宮怜旺

製作現場記録: 灘井大介 サウンドコラージュ: ゾンピロン

地元プロデューサー: 飛田一 韓国配給企画プロデューサー: 金錫範

登場人物とキャスト

- 明子（周吉の次女）森島由季（放映新社所属）
- 健二（明子の彼氏）：篠宮将（プロジェクト・コア所属）
- 紀子（周吉の長女）：中村愛（放映新社所属）
- 亮助（紀子の夫、作家）：吉永真也（放映新社所属）
- 周吉（教授）：水上竜士
- 宏（紀子の若き日の彼氏）：西村裕慶（プロジェクト・コア所属）
- 頼子（宏の友達）：白澤百合恵（放映新社所属）
- 房子（娼婦）：川端綾乃（放映新社所属）
- 富田（バーテンダー）：大浦司（放映新社所属）
- 松下（学生）：二瓶宜秀（クリアーファースト所属）
- 登（バンドマン）：四方遼祐（劇団フジ-GRAB-所属）
- 春子（周吉の妹）：福井由美子（放映新社所属）
- 女将（隠れ里）：玉暉やよい（放映新社所属）
- 城戸（曾宮の先輩）：佐々木厚咲（放映新社所属）
- 医者1（産婦人科）：日高由紀子（放映新社所属）
- 医者2（総合病院）：久米誠一（放映新社所属）
- 看護婦1（産婦人科）：上村妹子（京都造形芸術大学）
- 看護婦2（総合病院）：西川真由（放映新社所属）
- 清掃員（ホテル）：金子房代（放映新社所属）
- 店員（宏の店）：福嶋琴葉（放映新社所属）

■ ゾンピロン監督 プロフィール 韓国出身。韓国国内でアートディレクターとして活動し、実験映画などを多く制作。2015年から日本在住。京都造形大学大学院に在籍し、今年3月に「小津安二郎作品におけるムービングイメージと〈死の美学〉について——「ロー・アングルと固定ショット」をめぐる考察を中心に——」というテーマの論文で博士の学位を取得。脚本・監督・編集を手がけた『福知山の元伊勢巡り』『織る』のほか、実験的アート『XmediaFilm 織る』の展示企画・空間演出など多彩な活動を展開。実験映画『深海の空』は、日本最大規模の映像アートの祭典「イメージフォーラム・フェスティバル 2016」の「ヤング・パースペクティヴ2016」に選定、インスタレーション映像『OBJECT SCAN TELEVISION』は2018年京都国際映画祭「クリエイターズ・ファクトリー」アート部門に選定。小津安二郎を題材とした悲劇三部作『貞雄』『節子』『小津』は2017年～2019年度までの3年間「芳泉文化財団」の助成作品に選定された。